

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
71	杏林大学	日本の貿易政策	小野田 欣也 総合政策学部 特任教授	2	秋	火	15	14:40～12:10	杏林大学 井の頭キャンパス	1～2

【到達目標】

本講義では国際貿易および日本貿易に関する基礎知識の習得と、現代の貿易問題を論理的に解明できる能力の獲得を目的とする。

*学位授与の方針との関連:この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(2)幅広い教養、(6)学際性の軸となる専門的な知識を養うことを目的としている。

【授業の概要】

本講義は日本における国際貿易問題を議論し、各論1と各論2から構成される。まず各論1で日本の貿易政策の変遷を概説する。続いて各論2で、1985年プラザ合意以後の通商問題を考察する。貿易構造は産業構造を基盤とし、また、貿易政策はマクロ経済政策と不可分の関係にある。それ故、日本貿易を直接対象としつつも、講義領域は国際貿易から世界経済にまで広範に及ぶ。

【授業内容】

以下の予定は、国際経済情勢の変化や講義の進行程度により変更がある。

第1回:講義予定、授業方針、日本貿易入門:講義の対象領域、授業方針等
に関し説明する。[講義・質疑応答]

第2回:各論1:貿易政策の変遷(1)経済発展と輸出:経済発展における輸出
の役割について学ぶ。[講義・質疑応答]

第3回:各論1:貿易政策の変遷(2)輸出振興政策:日本における輸出振興政
策の実態と役割に関し学ぶ。[講義・質疑応答]

第4回:各論1:貿易政策の変遷(3)輸入拡大の実態:1980年代以降の輸入
拡大の実態と要因に関し学ぶ。[講義・質疑応答]

第5回:各論1:貿易政策の変遷(4)輸入構造の変化:1980年代以降の輸入
構造の変化について学ぶ。[講義・質疑応答]

第6回:各論1:貿易政策の変遷(5)輸入促進政策:1980年代以降実施された
輸入促進政策について学ぶ。[講義・質疑応答]

第7回:各論1:貿易政策の変遷(6)輸入促進政策の効果:輸入促進政策の効
果と2000年以降の変化について学ぶ。[講義・質疑応答]

第8回:小まとめ1、小テスト1:ここまでの講義を整理し、小テストを実施する。さ
らに問題解説を行う。[講義・小テスト]

*課題に対するフィードバックの方法:毎回授業の始めに前回の課題についてのフィードバックを行う。

第9回:各論2:プラザ合意以後の通商問題(1)為替レート変化と日本貿易:円
高を製造業はいかに対応・克服したのかを学ぶ。[講義・質疑応答]

第10回:各論2:プラザ合意以後の通商問題(2)海外投資と産業空洞化:円高
による海外投資の拡大と産業空洞化の関係に関し学ぶ。[講義・質疑応答]

第11回:各論2:プラザ合意以後の通商問題(3)投資自由化と対内直接投資:
対内投資の自由化や投資拡大について学ぶ。[講義・質疑応答]

第12回:各論2:プラザ合意以後の通商問題(4)サービス産業の国際展開:サ
ービス業の海外展開について学ぶ。[講義・質疑応答]

第13回:各論2:プラザ合意以後の通商問題(5)EPA・FTAの進展と日本貿
易:EPA・FTAが日本においていかに進展し、通商政策を転換していった
のかを学ぶ。[講義・質疑応答]

第14回:小まとめ2、小テスト2:ここまでの講義を整理し、小テストを実施する。
さらに問題解説を行う。[講義・小テスト]

第15回:全体のおまとめ:講義全体を解説し、定期試験や評価方法に関し説明
する。[講義・質疑応答]

【成績評価方法】

平常点(授業中の小レポート)30%、小テスト35%×2回、で評価する。

授業中の小レポートは基本的に毎回実施し、20行程度の論述の提出をもって確認する。なお、定期試験や小テストは持ち込み不可で実施する。

【教科書】

特に教科書は指定しない。

【参考書、教材等】

講義中に適宜紹介する。

※この授業は、9/22(火)が初回です。